

マライゼーションの啓発に生かしていくことにしています。

四 主な研修

ここでは、『平成十年度ふれあいウイング』事業の一端を紹介します。

(1) 主な研修内容

① 「自立生活センター」

センターの現状と課題、運営状況、自立生活プログラムの体験等

② 「大学」

学内センターの現状と課題や学生用支援プログラムの体験等

③ 「盲学校・聾学校」

教育システム、方法等の研修

④ 「ホームステイ」

一般家庭における介助システムの研修

⑤ 「街全体の視察」

教育、雇用、交通、レクリエーション・スポーツ、建築等、すべての面において障害者も普通にサービスを受けるいわゆるノーマライゼーションのあり方の体験

② 研修の形態及び研修先

研修は、全体研修とグループ別研修の二形態をとって行われました。(表1)

表1 主な研修先機関等

[9月9日 (木)]	◇パークレー市のCIL(自立生活センター)訪問(全体) ◇パークレー市関係者からのオリエンテーション
[9月10日 (木)]	◇障害者の委員会(マンスリーミーティング)に特別参加 ◇カリフォルニア聾学校(フレモント)訪問 ◇CTP(コンピュータ技術訓練センター)研修(全体)
[9月11日 (金)]	◇UCB(カリフォルニア州立大学パークレー校にて研修)
[9月12日 (土)]	◇ホームステイによる自主研修
[9月13日 (日)]	◇ホームステイによる自主研修 ※ホテルにて(ホームステイの方と)お別れ会
[9月14日 (月)]	◇カリフォルニア盲学校(フレモント)訪問 ◇ライトハウス(サンフランシスコ)訪問
[9月15日 (火)]	◇サンフランシスコ市内体験視察
[9月16日 (水)]	◇UCB 見学及びパート(地下鉄)乗車体験 ◇CAT(科学技術を使うことを学ぶためのセンター)研修

自立生活センター

(CIL)

パークレーから始まった

CIL

(3) 研修先の概要

ここでは、自立生活センター、カリフォルニア大学及び盲・聾学校における研修について述べます。

① CILの設立主旨

CILとは、障害者に必要なサービスは障害者自身が一番よく知っているという発想に基づいて、障害者自身が主体性をもって運営している非営利団体です。障害者が地域の中で独立した生活を営めるよう、アテンダント(有料介助者)の紹介、自立生活体験プログラムなど多様なサービスを提供しています。

米国最初のCILは、一九七二年、パークレー市に設立され、現在、全米に四百以上あります。

② CILの思想

障害者の脱施設と自己の主体性確立が主題となっており、次の四点が基本思想となっています。

ア 障害者は、施設収容ではなく地域で生活すべきである。

イ 障害者は、治療を受けるべき患者でもないし、保護される子供でも崇拜される神でもない。

ウ 障害者は、援助を管理すべき立場にある。

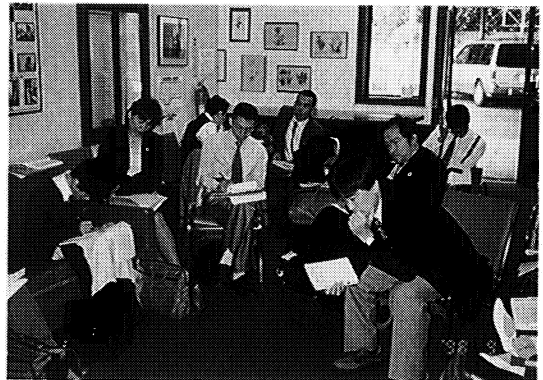
エ 障害者は、障害そのものよりも社会の偏見の犠牲者

③ 自立生活とは

自立生活を送るためには、次の三つの権利の保障が必要とされています。

ア 選択する権利があること。
※ 生活の基本的なことから始まって、障害のある人が全てを選択する権利がある。

イ サービスを受ける権利があること。



▶ 自立生活センターで研修事前研修で学んだことの再確認や多くの質問が出て、予定時間をかなり過ぎてしまいました。